

令和4年度国際文化交流学科 一般選抜（中期日程） 小論文 出題意図

I 「よむ」ということをめぐる若松英輔氏のエッセイからの出題である。全体に、文章の本質をつかみ、文章にまとめて表現する力をみる。問1は、本文全体を流れる主題を読解できているかどうかを問うている。「よむ」ことのさまざまなあり方の説明や例示があった後に、再度「よむ」とはどういうことか、筆者の考えが述べられているが、その箇所を探し出せているかを問う。問2は、文章を理解し、簡潔に説明する力を問う。問3では、「よむ」ことの意味や、作品は書き手だけでなく読み手により創造されるという本文後半の趣旨を理解したうえで、自らの考えをまとめることを求めている。しっかりとした読解力、思考力を持ったうえで、独自性ある文章にまとめ表現する力をみる。

II 幸福感を研究する心理学者、内田由紀子氏の著作『これからの幸福について 文化的幸福観のすすめ』からの出題。問1は、人々の幸福の長期的な維持に必要な視点について、本文を正確に理解し、著者の意図を読み解く能力と、該当箇所を簡潔かつ正確に要約する能力を問う。問2は著者が提示する「幸福を支える要件」と、「幸福を感じる力」の定義を本文中から正確に読み取り、2つの語句の関係性を明確に対比させた上で簡潔に説明する能力を問う。問3では、「地域固有な自然や文化に基づいた持続可能な社会づくり」の意味を本文を踏まえて適切に理解した上で、それについての自分自身の考えを述べることを求められており、読解力と表現力に加え、日頃より、地域社会の持つ課題や社会を取り巻く状況にどれだけ関心を向けているかを問うている。